

Interview

No.

5

NPO 法人
山野草の里づくりの会
里山の再生・持続に向けて

里山を守り、 未来に繋げていくために

多くの動植物が共存する 美しい里山へ

大自然が広がる大和高原の一角にあたり、標高350～500mの大和川のほぼ水源に近い場所に、日本を代表する里山『山野草の里』（桜井市三谷）が広がっています。「山野草の里づくりの会」では、この里山を守り、未来に繋いでいくために日々、自然保護に取り組んでいます。

里山の荒廃を止めよう！

桜井市三谷周辺は1970年頃まで、農林業の営みの中で美しい山里の景観が保たれ、多くの動植物が共存していました。しかし、高度経済成長とともに農林業が不振となり、家が残っていても若者は村を離れ、田畑や山林の管理放棄が進んでいました。「このままではいけない、三谷の荒廃を止めよう！」と、地元の福岡定晃さん（前理事長）とその友人の芳原和夫さん（副理事長）が知人らに呼びかけ、手ノコ、手鎌で竹林の伐採をスタートさせたのが2000年です。翌2001年4月には、この里山を管理・保全し、未来に繋いで

いくために「山野草の里づくりの会」を結成しました。結成当時、孟宗竹の林は広範囲に広がっており、竹は太くて堅かったため、すべてを伐採するのにスタートから2年余りかかりました。まさに最初の大仕事です。



NPO 法人山野草の里づくりの会
村上 秀夫 理事長

2003年9月には「山野草の里づくりの会」をNPO法人化しました。現在、里山保全活動の主なスタッフは、桜井市や奈良市、大和高田市、天理市、橿原市、宇陀市、川上村などから車で通う還暦前後から80歳代の10数人。全員ボランティアで、水曜・土曜日の週2回活動しています。

活動内容は幅広く、耕作放棄田畑を整備し復活した田畑では無農薬で古代米栽培（2012～）や野菜づくり、放置山林では下草刈り、間伐を行い伐採樹木を利活用して椎茸栽培、薪づくりをしています。山裾の草刈り、池や水路の掃除などにも取り組み、里山の自然環境の保全と景観維持に努めています。また、2007年に地元の親子と一緒に棚田休耕田に「湿地ビオトープ池」を掘り、2008年からはビオトープ池に自然に集まった生き物の観察などを行う親子参加の「みんなでいかそうビオトープ」の活動を開始、2017年には子供たちが描いた昆虫の絵を1冊にまとめ「三谷いきもの図鑑」として発行しました。ビオトープの活動は子供たちの心豊かな成長を願うもので、NPO活動における大きな柱に位置づけて継続しています。



継続することが何より大切

四半世紀以上も活動を続けられるのは、里山だけの楽しみがあるからです。キンラン、ササユリ等々、山野草の花が咲いたら一緒に見に行きます。日々の作業の後は青空のもとで昼食、シイタケや野菜、果実など山里の恵み（収穫物）を分けあったり、何よりも会員同士の交流が元気の源です。還暦前後の世代が

少し増え、耕運機の操作を習ったりして野菜づくりを始める人も増えています。

2017年より奈良県森林インストラクター会の協力で「里山保全ボランティア養成講座」を毎年開催し、延べ100人以上の方に受講いただきました。この講座の修了と同時に活動に参加する方も多く現在の活動を支えてくれています。2015年12月に「山野草の里」が環境省から「生物多様性保全上重要な里地里山」に選ばれ、2024年には「NPO法人山野草の里づくりの会」が社会奉仕活動の功績が認められ緑綬褒章を受章するに至りました。

日本の原風景・里山を未来へ

地元三谷集落との結びつきも大事です。三谷の道路掃除、中山間地域直接支払制度への参加、2025年4月三谷菅原神社において「春のコンサート」を開催、集落を盛り上げていきたいと考えています。

今後は『世代交代の機運を高め』て次世代が活動を牽引する新たな「山野草の里づくりの会」を目指します。活動開始25年、会の発足から20年以上が経ちましたが、これからが大事な時です。この里山を未来に繋げていけるように、新しい世代にバトンタッチできるよう精一杯取り組んでまいります。

里山は日本の原風景、癒しの空間、パワースポットです。交通不便なところですが、一度遊びにきてみてください。

